

第2部 「創造定住拠点」形成に必要な5つの視点

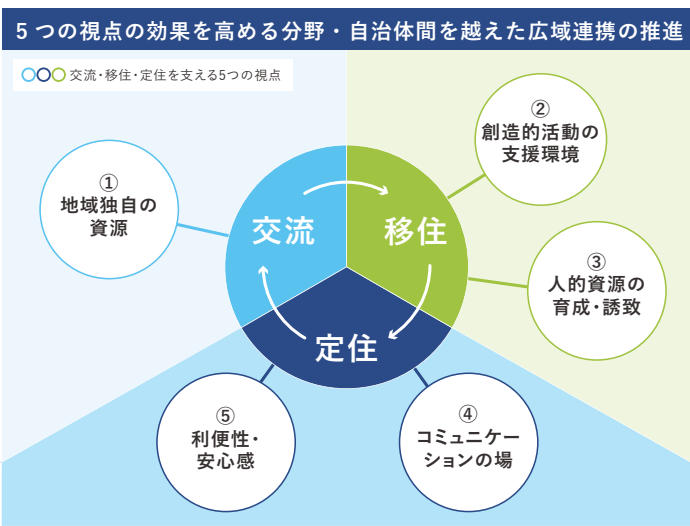
創造的人材を呼び込むためには、まず、交流により地域を知ってもらい、移住・定住に導いていくサイクルを形成していくことが重要です。

まず、交流促進に必要な視点として、①地域独自の資源の有効活用が挙げられます。

次に、移住促進に必要な視点として、②創造的活動の支援環境の創出、③人的資源の育成・誘致が挙げられます。

そして、定住促進に必要な視点として、④コミュニケーションの場の形成、⑤利便性・安心感の創出が挙げられます。

なお、5つの視点に基づく取組については、多様な自治体（都市・農山漁村）と広域的に連携しながら取組んでいくことも重要な視点です。各タイプの自治体が相互に連携することにより、5つの視点の効果を高めていくことも可能です。



第3部 「創造定住拠点」形成の手順とポイント～先進的取組事例から学ぶ～

「創造定住拠点」形成の手順として、計画段階・立上段階・実践段階・継続段階の4つの段階が存在します。各段階における手順とポイントを先進的取組事例より紐解き、創造定住拠点形成に向けた道筋を分かりやすくナビゲートします。

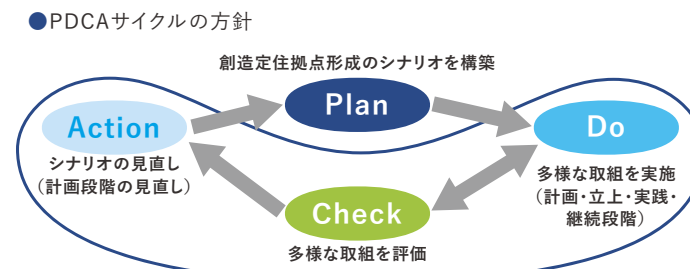
●「創造定住拠点」形成に向けた先進的取組事例の一覧

市町村名・概要	計画段階	立上段階	実践段階	継続段階
(A) 島根県松江市 ／H27:206,230人 オープンソース(Ruby)をきっかけとして、創造的人材(IT)・地域住民・行政等の「多様な主体の連携」が進み、新たな産業(ソフトウェア)の形成、多様な主体が集まれる場(松江市オープンソースラボ)の形成、機会(しまねOSS協議会)の創出、人材育成・交流等の新しい取組が展開され、地域が活性化しています。	①地域づくり「ビジョン」の作成 ●Ruby City MATSUE プロジェクトの実施……………P37	③移住希望者の「滞在・交流拠点」の形成	⑥多様な主体が集まれる「場」の形成、「機会」の創出 ●松江市オープンソースラボ……………P52 ●ビジネスプランコンテスト……………P53 ⑦新しい取組を「継続」するための「組織」の形成 ●しまねOSS協議会……………P5	⑧新しい取組を「継承・発展」させていく「人材」の育成 ●学生へのプログラミング講座……………P60
(B) 徳島県美波町 ／H27:7,092人 徳島県による全県的なサテライトオフィス(SO)プロジェクトに対応してサテライトオフィス実証実験及び地域視察を実施し、IT企業を誘致。その後、空き家活用によるオフィス・住居・交流施設等の整備を進めるとともに、サテライトオフィス移住者と地域住民との交流を通して、地域課題ビジネスの株式会社設立やICT活用の新たな産業開発等を進めています。	①地域づくり「ビジョン」の作成 ●とくしまサテライトオフィスプロジェクトの実施……………P38	②移住希望者への「地域情報」の効果的な発信 ●「四国の右下」(徳島県南域の呼称)活性化の取組……………P40 ③移住希望者の「滞在・交流拠点」の形成 ●美波町でのサテライトオフィス実証実験及び地域視察……………P44	⑤移住者と地域の「関係」づくり ●移住者と地域との関わり……………P50 ⑥多様な主体が集まれる「場」の形成、「機会」の創出 ●地域交流施設・コワーキングスペース等の整備……………P53 ●「ミナミマリンラボ」の開設……………P54 ⑦新しい取組を「継続」するための「組織」の形成 ●地域活性化支援株式会社 起業……………P58 ●「四国の右下」若者創生協議会の活動……………P58	⑧新しい取組を「継承・発展」させていく「人材」の育成 ●デュアルスクールの取組……………P61 ●IT人材育成に向けた高専との連携……………P61

多様な主体の連携方法・取組ポイントを地域づくりの段階毎に分かりやすくナビゲートします！

第4部 「創造定住拠点」形成を進めるにあたって

中国圏・四国圏の将来像の実現にむけて、創造定住拠点形成の取組を持続可能なものとするために、必要に応じて見直しをしていく必要があります。



「創造定住拠点」形成ガイドブック（概要版）

創造定住拠点

中国圏・四国圏連携による
「創造定住拠点」形成プロジェクト

写真提供：山口県萩市



地域活性化

虎の巻

移住者参加型の新しい地域づくりに
図解と事例でこれさえ読めば答えが見えてくる

「創造定住拠点」形成ガイドブック

地方創生担当者 必見！

本編はこちら

https://www.cgr.mlit.go.jp/chiki/kokudo_keisei/souzouteijyuu_pj/

●ガイドブックのねらい

近年、大都市圏からの田園回帰や AI・IoT 等による第4次産業革命等の社会動向を背景に中国圏・四国圏内においても三大都市圏から知識創造産業を担う人材を含む移住が進みつつあります。

このガイドブックは、このような「創造定住拠点」としての先進地域の事例を調査・分析し、学識経験者等の意見を踏まえた上で、「創造定住拠点」形成のための手順やポイント、効果等について分かりやすく整理したものです。

「創造定住拠点」形成施策は移住・定住施策の一つです。このガイドブックを地方創生に取り組んでおられる自治体のみなさまや、実際に地域で活躍されているプレイヤーのみなさまの取組みの参考として頂くことにより、地方創生が図られ、その効果が中四国・四国圏のみならず全国に波及することを期待しています。

●ガイドブックの構成

第1部 「創造定住拠点」の定義と期待される効果

第3部 「創造定住拠点」形成の手順とポイント

第2部 「創造定住拠点」形成に必要な5つの視点

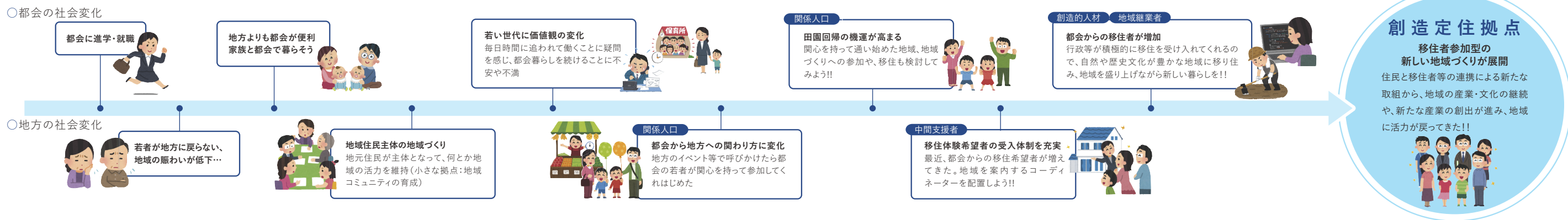
第4部 「創造定住拠点」形成を進めるにあたって

第1部 「創造定住拠点」の定義と期待される効果

「創造定住拠点」の定義

●「創造定住拠点」とは？

- ・近年、働き方改革等にみられる若い世代の価値観の変化により、都会住民の地方への関わり方が多様化しています（例：週末二地域居住等の関係人口）。また、田園回帰の機運の高まりから、自然や歴史文化が豊かな地方に移り住む都会住民も増えつつあります。このような地域では、行政・住民と移住者等の協働により、地域の産業・文化の継続、新たな産業の創出等が進み、地域に活力・賑わいが生まれています。
- ・中四国圏では、こうした移住者参加型の新しい地域づくりが展開されている市町村を「創造定住拠点」と定義します。



●「創造定住拠点」で活躍するプレイヤーは？

「創造定住拠点」では、地域住民や行政の他に移住者（創造的人材、中間支援者、地域継業者）がプレイヤーとして参加しており、多様な主体の連携による新しい地域づくりが行われています。また、この他に関係人口も地域づくりに様々な形で寄与しています。

●「創造定住拠点」形成の役割・必要性は？

- ①地方圏から三大都市圏への継続的な転出超過の是正、②東日本大震災以降の都市から農山漁村への移住ニーズの高まり、③働き方改革を背景とした新しい住み方・働き方のニーズの高まり、④三大都市圏では得難い中国圏・四国圏の魅力を活かす 4 つの観点が挙げられます。

「創造定住拠点」形成により期待される効果

- ・中国圏・四国圏における「創造定住拠点」形成が進んでいる地域（三大都市圏からの転入超過回数が6年間（H24～H29）で4回以上の市町村）を対象として、「創造定住拠点」形成による効果をご紹介します。

「創造定住拠点」形成事例①

島根県松江市における創造的人材 (IT) 参加型の地域づくり

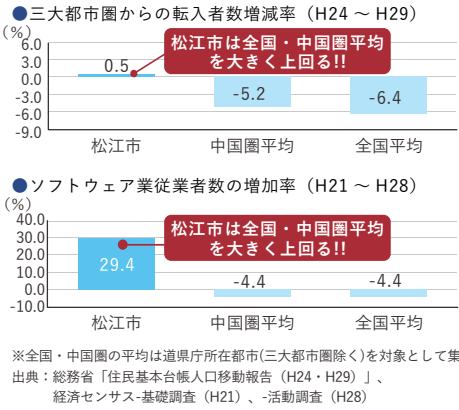
県庁所在都市において、ITを核とした新たな産業形成・地域づくりが進行!!

写真：松江オープンソース活用ビジネスコンテストを定期開催。分野間連携を促進。



創造的人材 (IT) 参加型の地域づくりによる効果

島根県松江市では、プログラム言語Rubyを活用したIT産業振興による地域づくりを行っており、三大都市圏からの転入者数増減率は+0.5%（平成24～29年）と他道県庁所在都市と比較しても卓越しています（中国圏平均はマイナス）。また、ソフトウェア業従業者数が+29%（平成21～28年）と大幅に増加して（中国圏平均はマイナス）、創造的人材 (IT) の移住が進んでおり、県庁所在都市における主要産業としての育成に成功しています。



「創造定住拠点」形成事例②

徳島県美波町における創造的人材 (IT) 参加型の地域づくり

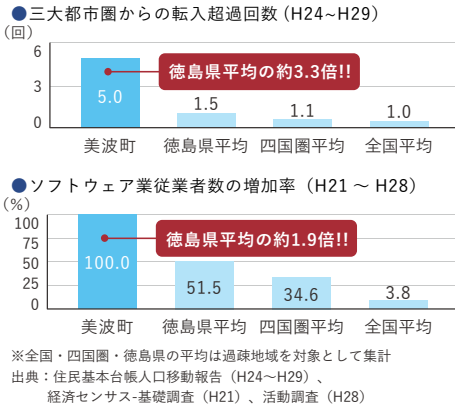
過疎地域に指定されている地域がサテライトオフィス事業で地域活性化!!

写真：明治時代の銭湯「初音湯」をリノベーションして交流拠点を形成。



「創造定住拠点」形成により期待される効果

徳島県美波町では、サテライトオフィス誘致による創造的人材参加型の地域づくりを行っており、三大都市圏からの転入超過回数（平成24～29年に5回）は他地域と比較して卓越しています（徳島県平均の約3.3倍）。また、ソフトウェア業従業者数が平成21～28年に+100%と大幅に増加しており（徳島県平均の約1.9倍）、これまで過疎地域に存在しなかった新たな産業（ソフトウェア業）が生まれています。



「創造定住拠点」形成事例③

島根県邑南町における創造的人材・地域継業者参加型の地域づくり

過疎地域指定の中山間地域が、A級グルメ構想で地域活性化!!

写真：A級グルメ構想に基づく施策の一環である、地域おこし協力隊に募集した「耕すシェフ」たち。



「創造定住拠点形成」により期待される効果

島根県邑南町では、A級グルメ構想（邑南町でしか味わえない食や体験の提供）の展開、耕すシェフ（料理人・農業）の募集等の食に関する地域づくりを行っており、三大都市圏からの転入超過回数は4回（平成24～29年）と他地域と比較しても卓越しています（島根県平均の約1.8倍）。また、専門料理店従業者数が+45%（平成28/21年比）と大幅に増加しており（島根県平均の約3.3倍）、過疎地域において創造的人材 (料理人) の移住が進んでいます。

